

相模原市緑区で発見されたコテングコウモリ *Murina ussuriensis* について

清水海渡*1 木元侑菜*2 秋山幸也*3

*1 神奈川県立津久井湖城山公園 *2 環境省奄美野生生物保護センター *3 相模原市立博物館

はじめに

コテングコウモリ *Murina ussuriensis* は管状の鼻孔と黄茶褐色の体毛に特徴があり、昼間の休憩場所(ねぐら)や冬眠場所には主に樹洞などを利用するコウモリ類である(阿部ほか,2007)。また秋季のねぐらとして枯れ葉を利用することが報告されている(山本,2006)。日本では北海道、本州、四国、九州等に生息している。神奈川県においては箱根山地(前田,1979)や丹沢山地において発見されている(山口,2002)。しかし、報告例はきわめて少なく神奈川県レッドリストでは絶滅危惧Ⅰ類にランクされている(広谷,2006)。

今回、筆者らは相模原市で初記録となるコテングコウモリを発見したためここに報告する。

確認状況

筆者らは2014年9月20日に神奈川県相模原市緑

区中沢にある藤野津久井線から入った道沿いのクズ *Pueraria lobata* の枯れ葉の中にコテングコウモリが入っているのを2カ所で発見した(図1)。クズの葉は枯れて丸まっており、その葉の中に入る形でコテングコウモリが休息していた(図2)(図3)。1個体は葉に入った状態で写真撮影をした後、気付いて飛び去ってしまった。目視の際に特徴的な管状の鼻孔が確認されたことと、体毛が黄茶褐色で金色の刺毛があること、葉の大きさが68mmと小さいことなどからコテングコウモリと同定した。

考察

筆者らが発見した10日後の2014年9月30日に同じ場所に行った際には同じクズの葉は落ちてしまっており、他の葉でも確認することはできなかった。筆者らはその後も葉が完全に落ちる11月15日まで10日に一度

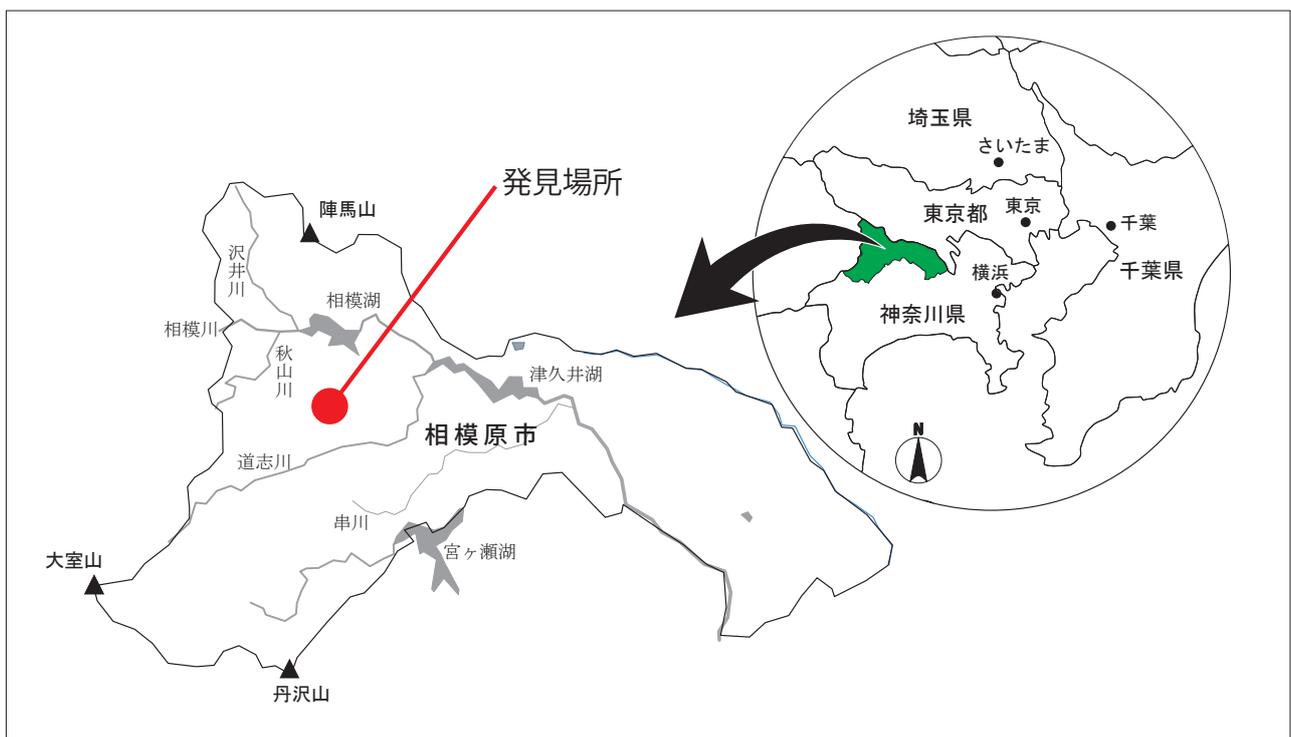


図1 発見場所の位置



図2 クズの葉に入るテングコウモリ



図3 クズの葉に入るテングコウモリ

訪れて確認した所、確認できなかった。コテングコウモリが秋季に枯れ葉をねぐらとして利用することは山本(2006)などで知られており、今回の発見場所もそうした利用ではないかと考え、翌年2015年9月10日から10月15日にも同様の確認調査を行ったが確認できなかった。

現在、神奈川県内においてコテングコウモリが確認されている場所は丹沢山地の玄倉流域沿いと箱根産地に限られており、関東山地の派生として位置する相模原市緑区周辺ではこれまで確認されていなかった。今後の調査においては国土交通省国土技術政策総合研究所が提示している『コウモリ類の調査の手引き(案)』に基づき、バットディテクター等を用いた調査が必要であると考えられる。

謝辞

繁田真由美氏には有用な文献情報をご提供いただきま

した。深く御礼申し上げます。

引用文献

- 阿部永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦信吾・米田正明,2005. 日本の哺乳類,改訂版,206pp.東海大学出版会,東京
- 広谷浩子,2006.哺乳類,高桑正敏・勝山輝男・木場英久編,神奈川県レッドデータブック生物調査報告書,2006,pp.225-232.神奈川県立生命の星・地球博物館,小田原
- 前田喜四雄,1979.日本の哺乳類(16)翼手目テングコウモリ属コテングコウモリ.哺乳類科学,(37):1-16.
- 山口善盛・曾根正人・永田幸志・滝井暁子,2002.丹沢山地におけるコウモリ類の生息状況.神奈川県自然誌資料,(26):49-51.
- 山本輝正,2006.テングコウモリとコテングコウモリの秋季のねぐら.コウモリ通信,14(1):13.